

ルテイン研究と皮膚の健康

1999

ルテインに紫外線(UV)を防ぐ可能性

スクリップス・クリニックのグリーンウェイ博士は、鼻の皮膚サンプルにおいてルテインを含むカロテノイド濃度が高いことを明らかにしました。

1998

ヒトの皮膚内にカロテノール脂肪酸エステルが存在T・ウイングラス氏が行ったヒト皮膚の研究によると、吸収後のキサントフィルのエステル化(水分のとれた化合物への変化)によりカロテノールエステルが形成される可能性が示されました。

ルテイン、-カロテンとアスタキサンチンの試験管内研究

アイルランドにあるコーク・ユニバーシティ・カレッジのオコナー、オブライエン両氏は、培養繊維芽細胞における長波長紫外線(UV-A)に誘導された酸化ストレスについてのテストを行いました。ここではアスタキサンチンの防御力が最も高いとの結果がでました。

皮膚におけるルテインの抗炎症性

ロンドン大学生薬研究所のテイラー、エバンス両氏により、ルテインを皮膚に塗布することで紅斑の形成が50%抑えられることが明らかになりました。さらに中波長紫外線(UV-B)に照射された皮膚にルテインを塗布することで、表皮細胞層が52%減少することもわかりました。

1995

ヒト皮膚におけるカロテノイド濃度と血漿組織

アリゾナ大学のペン博士は、血漿中のカロテノイド、レチノイドおよびトコフェロール濃度と、血漿と皮膚中の口腔粘膜細胞(BMC)の相関関係を研究しました。結果、喫煙者における血漿、口腔粘膜細胞および皮膚内のカロテノイド濃度は非喫煙者よりも大きく下回ることがわかりました。

1993

ヒト組織におけるカロテノイド、レチノイドおよびトコフェロール濃度の測定

アリゾナ大学のペン博士により、顔の皮膚、子宮頸部および卵巣組織におけるルテイン、リコピン、カロテン、レチナール、パルミチン酸レチノール、トコフェロール濃度を測定する非加水分解方式が開発されました。